

自主臨床研究

腎臓・骨代謝研究グループ

ヒト人工多能性幹細胞を用いた 小児骨系統疾患の病態解析と治療法の開発

研究の対象	すでに骨系統疾患を生じている、あるいは生じる可能性のある小児・新生児 (骨形成不全症、軟骨無形成症、軟骨低形成症、低フォスファターゼ症、家族性低リン血症性くる病、大理石骨病などが主な対象)
研究目的・方法	発症メカニズムの解明や治療法の開発が進んでいない小児骨系統疾患患者の皮膚組織、あるいは臍帯組織より疾患特異的iPS細胞を作成し、骨細胞系へと分化誘導する。またiPS細胞と同様の遺伝子導入手法により、直接的に骨芽細胞や骨細胞に特異的な機能を有する細胞を作成する。これにより骨細胞の増殖・分化過程を患者の臨床症状と関連づけながら観察するとともに、遺伝子異常による病態発生メカニズムを解明し、治療法の探索を行う。 研究期間：2011年02月07日 ～ 2031年02月06日
研究に用いる試料・情報の種類	情報：年齢、性別、病歴、血液検査、尿検査、画像検査、遺伝子検査、治療内容 等 試料：血液
外部への試料・情報の提供	研究機関へのデータの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。対応表は、当科の研究責任者が保管・管理します。
研究機関	大阪大学医学部附属病院 大阪大学医学系研究科 小児科学講座 京都大学iPS細胞研究所

お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

大阪大学大学院医学系研究科 小児科学

窪田 拓生

吹田市山田丘2-2

06-6879-3932

研究責任者：

大阪大学大学院医学系研究科 小児科学

大藺 恵一

研究代表者：

大阪大学大学院医学系研究科 小児科学

大藺 恵一